

平成 29 年度新潟県支部同窓会総会の開催報告

平成 29 年 7 月 1 日(土)、新潟市の ANA クラウンプラザホテル新潟で、新潟県支部同窓会定例総会を開催しました。当日は会員 30 名の出席があり、大学から来賓として、事務局長を兼務しておられる獣医学部動物応用科学科の滝沢達也先生のご臨席をいただきました。

総会は、小野島学会長 (S50 年卒) が急遽欠席のため、小嶋佳彦副会長(S53 卒)が会長挨拶を代読し、議長として議案が審議されました。平成 28 年度事業報告及び収支決算並びに平成 29 年度事業計画 (案) 及び収支予算(案)は、いずれも原案どおり承認されました。また、卒業生が同窓会へ参加しやすいよう、在校生への卒業祝い贈呈事業の計画も承認されました。

総会の後、会員レポートとして、新潟県立環境と人間のふれあい館—新潟水俣病資料館—の館長塚田眞弘先生 (S41 年卒) から「新潟水俣病にみる差別と偏見」として、報告がありました。新潟水俣病の原因究明の経過、メチル水銀の生成過程や毒性、国や昭和電工の対応、水俣病患者への偏見などを説明いただきました。麻布大生にもぜひ聴講してもらいたい内容でした。

次に、滝沢先生から「麻布大学の近況と研究紹介」と題して講演がありました。人口減少に伴い、私立大学の 45%が定員割れとなっており、志願者が逆に増えている有名私立大学と二極化している。麻布大学がどちらに入るか、厳しい状況で、今後の社会から求められる人材の育成を目指す必要がある。選ばれる大学となるために、今後はソフト面の整備・充実が必要で、大学の知名度の向上のための広報戦略、教員・職員の一体改革、入試制度の改革が必要とのことでした。研究内容については、脂肪組織幹細胞の研究で、この幹細胞から神経組織をつくる研究を進めている。脂肪組織から神経組織への分化に関わる因子を明らかにして神経への分化誘導率を向上させる方法や神経組織の分化を促進するための研究を紹介された。滝沢先生は事務局長をも兼務して今後の大学の充実のためにも献身しておられ、頭の下がる思いでした。

懇親会は、小松原先生(S24 卒)の乾杯で始まりました。酔いが回れば「寮歌」、「記念祭の歌」そして、毎年恒例の早福昌司先生(S34 卒)の「数え歌」です。今年はなんと星野範雄会員 (S55 年卒) が白衣をまとった神主に扮して登場。滝沢先生がお祓いをうけられました。

新潟県支部は総会に併せて毎年「新潟県同窓会報」を発行しています。今回で第 46 号となりました。会報への投稿として、「一枚の写真から」というテーマで原稿を募集しています。思い出の一枚が必ずあると思いますので、会員の皆様からの投稿をお待ちしています。

事務局 田村 務 (S58 卒)

